

学習ポイント 1

中学2年・語彙の学習

読み書きから意味の理解へ、さらに文脈に応じた使い分けへ進む。A～Cは練習24問、Dは確認8問・100点満点。

目標 代表的な四字熟語を正しく読み、漢字四字で書ける。／似た表現を比べ、文脈に合う意味を捉えられる。／具体的な出来事と結び付け、適切な使い方を説明できる。

1 四字を、意味のまとまりとして読む

四字熟語は四つの漢字を一まとまりとして使う言葉。この单元では、特有の意味をもつ表現を扱う。漢字を一字ずつ読むだけでなく、全体の読みと意味を組にして覚えよう。

例1 異口同音（いくどうおん）：多くの人が同じ意見を述べる。

例2 十人十色（じゅうにんという）：好みや考えは人によって違う。

例3 一長一短（いちちょういったん）：よい面と悪い面の両方がある。

2 漢字の意味を、書き分けの手がかりにする

音だけで覚えると、同じ読みの別の字と取り違えやすい。「何をする事なのか」を言い換えてから漢字を書き、最後に四字全体を読み直そう。

例1 試行錯誤：試して失敗を直しながら、よい方法を探す。

例2 自画自賛：自分でしたことや自分の作品を、自分でほめる。

例3 適材適所：その人の能力に合う役割や仕事を任せる。

3 似た場面でも、表している点は違う

問題を解決する場面でも、何に注目するかで使う語が変わる。前後の文から、「手がかり」「繰り返す試み」「状況の変化」など、意味を決める部分を探そう。

例1 暗中模索：見通しが立たず、手探りで方法を探す。

例2 試行錯誤：試みと失敗を重ねて、方法を改善する。

例3 臨機応変：その場の変化に合わせて、適切な対応をする。

学習ポイント 2

中学2年・語彙の学習

4 気持ちや態度を正確に表す

人物の気持ちを表す語は、よい意味か悪い意味かで決めてはいけない。迷っているのか、疑っているのか、気持ちを切り替えたのかを具体的に考えよう。

例1 優柔不断：決めるべきことを、なかなか決められない。

例2 半信半疑：本当かもしれないと思う一方で、疑っている。

例3 心機一転：あるきっかけで、気持ちや考え方をすっかり変える。

5 比較の観点と、物事の優先順位に注目する

何と何を比べているのか、何が重要なのかを確かめると、意味を取り違えにくくなる。日常の出来事を言い換えるときも、その観点が文に表れるようにしよう。

例1 大同小異：細かな違いはあるが、大筋では同じだ。

例2 本末転倒：重要なことと、それほど重要でないことを取り違える。

例3 前代未聞：それまでに聞いたことがないような、珍しい出来事だ。

6 表現を使ったら、文全体で点検する

四字熟語を入れるだけでは、意味が伝わる文にはならない。その語に当てはまる出来事を具体的に示し、語の前後が自然につながっているかを確かめよう。

例1 単刀直入に、参加できるかどうかを尋ねた。前置きをせず本題に入っている。

例2 予備の資料や連絡先までそろえた、用意周到な準備だった。抜けがない。

例3 紙の地図にも電子地図にも一長一短がある。両方の長所と短所を挙げると説明が明確になる。

使い方と参考資料

取り組み方・表記の基準・参照資料

A 基礎 → B 標準 → C 応用 → D 確認の順に取り組みなさい。A～Cは練習、Dは8問100点の確認テストです。

中学2年生の基礎～標準を中心に、既習事項の復習と文脈に応じた使い分けを扱います。全語が全国共通の中2新出事項という意味ではありません。

漢字のマスは9mm、罫線は10mm間隔です。解答欄の番号や表示に合わせて答えなさい。余ったマスや行は空けて構いません。

本教材では、学習用の標準的な表記を練習します。辞書に認められる異表記をすべて解答に挙げているわけではありません。言い換え・別読・送り仮名は、各問の解答と採点基準を確認してください。

設問と例文はオリジナルです。特定の入試の出題頻度を示す教材ではありません。学習範囲や語義・表記は、次の資料を参照しました。

1 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』

2 日本漢字能力検定協会 漢字ペディア「試行錯誤」

3 日本漢字能力検定協会 漢字ペディア「本末転倒」

4 日本漢字能力検定協会 漢字ペディア「付和雷同」

5 日本漢字能力検定協会 漢字ペディア「自画自賛」

6 日本漢字能力検定協会 漢字ペディア「単刀直入」

資料確認日 2026年10月12日。資料名から参照ページを開けます。